

## 追悼 名誉会長・岡本包治先生

山本 恒夫  
(筑波大学)

すでにご存じの通り、本学会名誉会長・岡本包治先生は、平成12年8月28日に逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生の多方面にわたるご活躍についてはよく知られておりますので、改めて述べるまでもないと思いますが、その業績の中心はやはり学習プログラム編成論にあったのではないかと思います。

その考え方は、昭和40年代の前半から国立（現国立教育会館）社会教育研修所の研修を通して、社会教育の行政、実践関係者に浸透して行きました。また、全国をまわってその普及に努めてこられました。同時に、著作でも実例を入れた学習プログラム編成論を展開しておられますが、まとまったものとしては、やはり『社会教育における学習プログラムの研究』（昭和48年、全日本社会教育連合会）をあげておかなければならないと思います。その頃、これからのプログラムのあり方についていろいろ話し合ったので、よく覚えております。

この書では、学習の要求や必要性に基づく学習プログラム編成論が展開されており、事前準備、学習プログラム作成の手順・方法、学習プログラムの展開と評価の技法が述べられ、学習内容の編成についても論じられております。学習プログラム編成論が先生のライフワークであったことは、ここ8年近くにわたって雑誌「社会教育」（全日本社会教育連合会）に毎月執筆、連載され、完結することなく平成12年7月号の第95回で絶筆となった「生涯学習プログラムの研究」をみてもおわかりいただけるのではないかと思います。

本学会の設立のいきさつについて1つだけ申し上げておきますと、先生はそれ以前に「現代社会教育会議」を主宰しておられ、学会設立に当たっては

その会員に呼びかけ、多くの方々にご参加いただいたということがありました。学会設立と同時に組織を解散してしまいましたので、今となってはそのことを知る人も少なくなったのではないかと思います。これは、ともすればイデオロギーに振り回されることのあった当時の情勢の中で、現場で非常に苦勞をしている方々からの強い要請があり、やむにやまれず結成したものです。その財務を担当しておりました関係で、領収書類をいまだに保管しております。ちなみに、当時の納品書を見ると、「現代社会教育会議会報」第1号（印刷部数は1000部）が納品されたのは昭和52年10月7日でした。

実は、会の資金2万5400円も手元に残っております。いずれまた何か会でも作る必要が生じたときのためと思い、そのまま保持してきましたが、もうそのような機会もなくなりました。これは学会に寄付したいと思います。

先生のご冥福を祈ります。